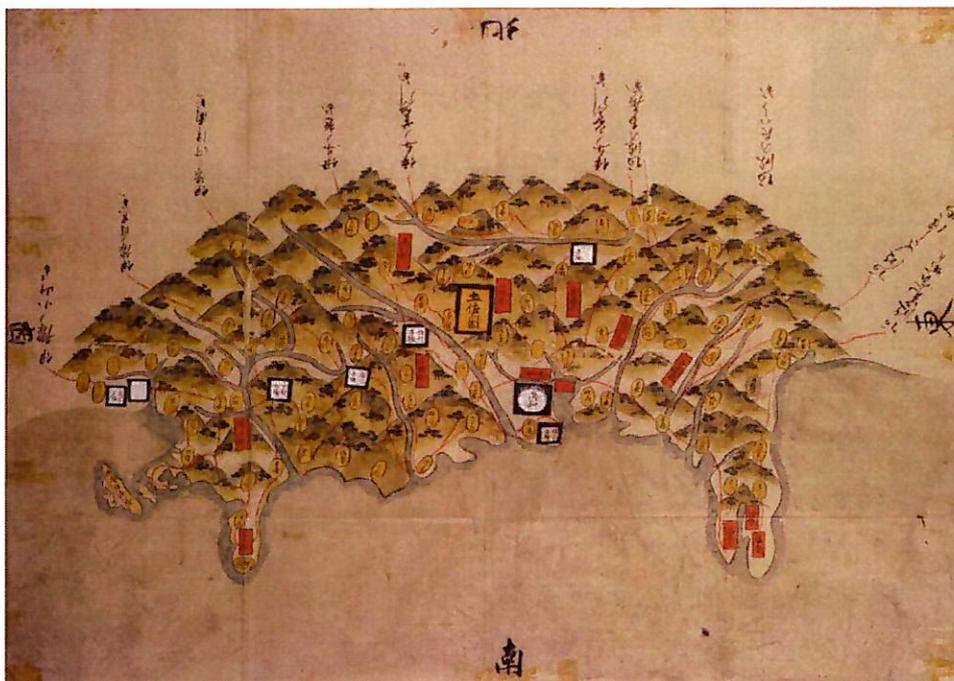


土佐と材木 - 土佐藩の財政と林業 -

高知県立高知城歴史博物館 渡部 淳

はじめに - 土佐国 -



土佐国絵図

【古代・中世】

(1) 紀貫之の官職 - 最終官職は木工権頭 -

越前権少掾→内膳典膳→少内記→大内記→兼加賀介→兼美濃介→大監物→右京亮
→土佐守→玄蕃頭→木工権頭

(2) 大忍庄（おおさとのしょう）の拡大 - 山から海へ -



(3) 楠木正成と土佐材

「この大功により、後醍醐の新政府成立後、検非違使、河内守、河内・和泉の守護として、記録所、雑訴決断所など、新政の多くの機関に名を連ね、河内国新開荘、土佐国安芸荘、出羽国屋代荘、常陸国瓜連等、多くの所領を与えられ、名和長年、結城親光、千種忠顕とともに三木一草の一人としてもてはやされた。」(世界大百科辞典)

(4) 『兵庫北関入船納帳』



甲浦 (安芸郡東洋町)	26
先浜 (室戸市佐喜浜)	3
なわり (安芸郡奈半利町)	10
前浜 (南国市前浜)	1
安田 (安芸郡安田町)	1

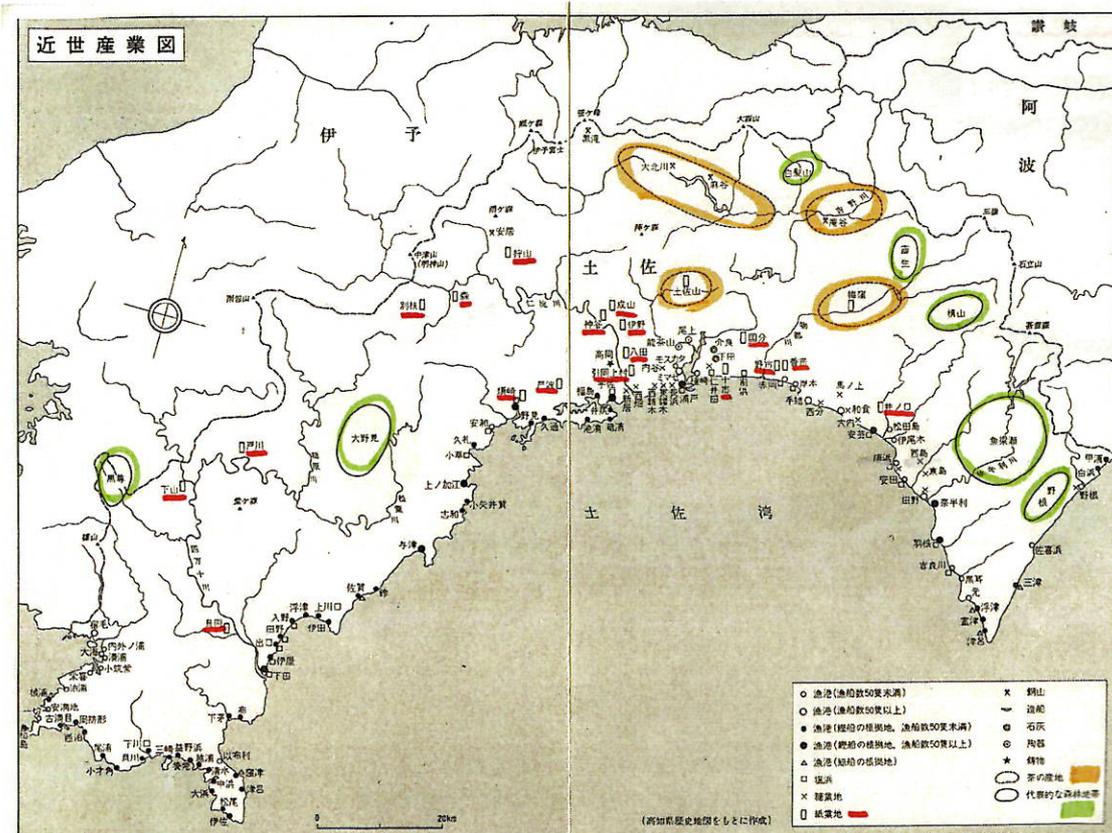
※徳仁親王「『兵庫北関入船納帳』の一考察」(交通史研究8号 1982年)

(5) 『庭訓往来』

「・・・隠岐鮑、周防鯖、近江鮎、淀鯉、土佐木材・・・」

【近世】

(1) 近世土佐の産業



④「軍役」の材木代替

材木六萬五千八百本ヲ幕府ニ獻ズ

御記録 徳義公卿御代御村
寛永元年甲子并分御役御材木被差上之請取役人衆守形來 玆錦歌集
請取申御材木之事
一本數六万五千八百本也
右是松平土佐守殿より子之歳之御役木之由にて上之御材木總請取申所實正也

山内家史料 侯爵山内家
寛永元年丑卯月廿二日
根東平太夫
磯田高直
大西理兵衛
入道國守
寺西左衛門
全清
井村不知齋門
松平土佐守殿行
山田助左衛門
同 百七左衛門殿
同 黒部三平殿

是ヨリ先國用窘窮セシテ以ッテ幕府ニ請フニ課役ニ代フルニ材木ヲ獻ズルヲ以ッテス幕府之ヲ允ス由リテ材木三千本ヲ獻ズ後以ッテ例トナル

御代代記 一 同。元和八年御國仕置御改替被仰付同年藤堂高虎殿ノ御取持ヲ以公儀石垣御普請御勤被成候ヲハ此後彌可為御不勝于依之御光中へ御内談被成被達高聞此以後ハ御材木ニテ御役儀御勤被成御示令

山内家史料 侯爵山内家

土佐藩から朝廷・幕府への献上材木

No.	年号(西曆)	材木の本数	献上用途
1	慶長12年(1607)	10,000本	駿府城普請用
2	寛永元年(1624)	65,800本	二条城・大坂城普請
3	寛永3年(1626)	27,990本	本年御役材木
4	寛永3年(1626)	35,600本	大坂城用材
5	寛永4年(1627)	12,090本	仙洞御所用材
6	寛永6年(1629)	53,733本	
7	寛永13年(1636)	66,440本	江戸城普請用
8	寛永16年(1639)	56,346本	江戸城本丸用
9	承応2年(1653)	33,120本	禁裏造営用
10	万治元年(1658)	89,173本	江戸城作事、明暦の大火復興用材
11	延宝元年(1673)	60,000本	禁裏炎上復興用材
12	天和2年(1682)	10,000本	
13	元禄13年(1700)	10,000本	3千本は大坂、7千本は江戸
14	宝永5年(1708)	21,725本	禁裏御用
15	寛政元年(1789)	20,000本	皇居造営料

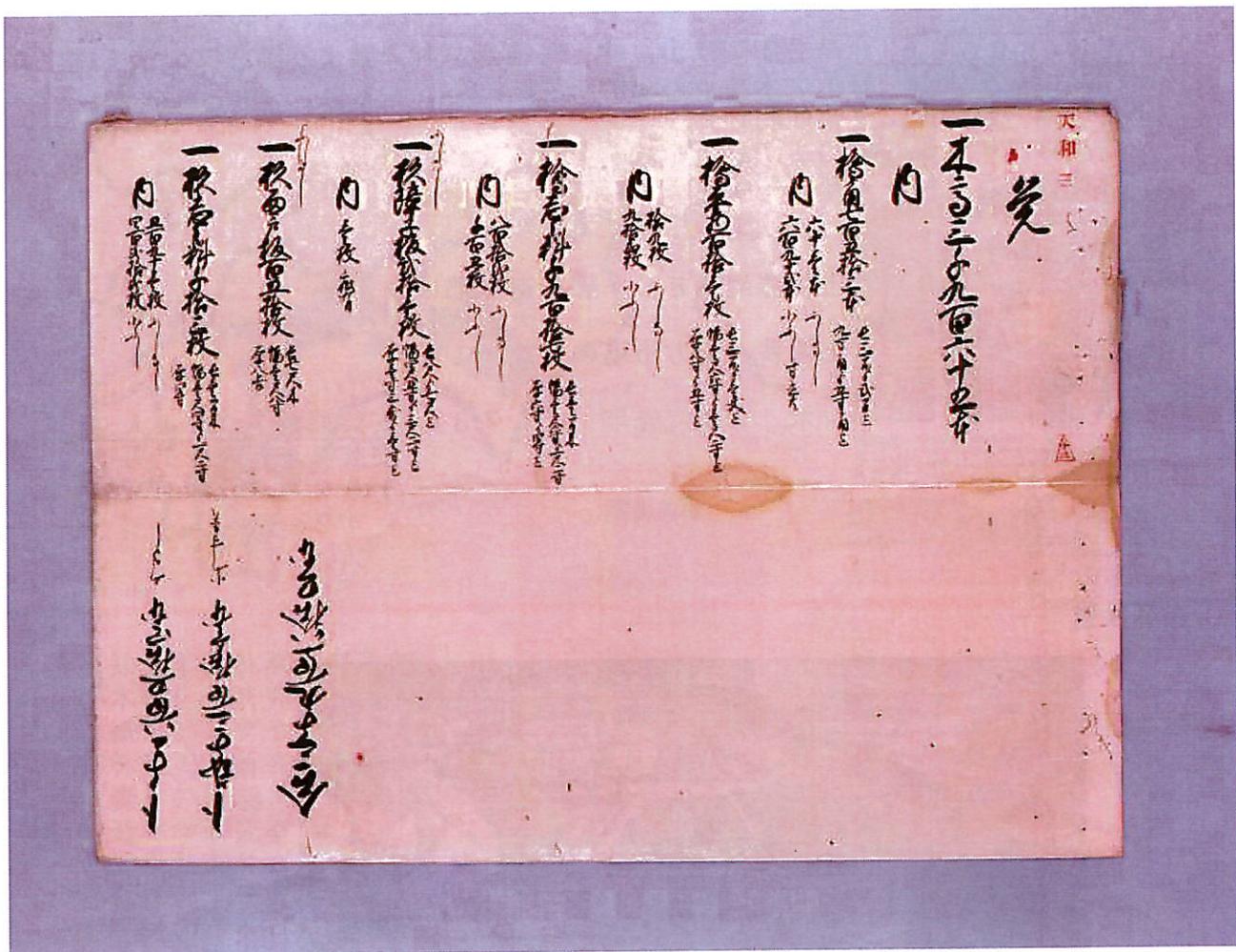


(出典)平尾道雄著『土佐藩林業経済史』(高知市民図書館、1956年)

* 1) 便宜により、1万本以上の献上のみを記す

* 2) 元和8年(1622)以降、土佐藩は幕府からの普請役の代わりに材木を献上

万治3年(1660) 材木揚場の品川設置を幕府にに請う
寛文4年(1664) 認可→下屋敷



⑤材木寄贈

- ①延宝5年(1677) 霊岸寺建立に「桧しし料」梶角300本寄贈
- ②正徳(1711~16) 霊岸寺再築に材木500本を寄贈
- ③延宝5年(1677) 備前岡山城主池田少将光政の隠居屋敷普請に材木を贈る
 - ・挽木 こぶし有 梶角500本 長2間木
 - ・わり木 こぶし有 「檜しし両」700枚 長1間木
 - ・わり木 こぶし有 「縦しし両」1000枚 長1間木
- ④延宝8年(1680) 上野沼田城主真田伊賀守信利に材木を贈ることを詮議
- ⑤元禄5年(1692) 常陸笠間城主本庄因幡守宗資に材木を贈る
(六角越前守広治が仲介)
 - ・檜平物10枚 ・梶平物20枚 ・梶角100本
 - ・檜角50本 ・杉穴料30枚 ・檜穴料90枚
- ⑥元禄13年(1700) 側用人柳沢出羽守吉保に材木を贈る 3000本

(3) 山の支配と商品化

①御留山と御留木

- 天和3年(1683) 山検地→御留山1115箇所指定
 - ・献上用材木「御用木山」
 - ・藩政用材木「御国用山」
- 焼畑開墾 - 重刑 樹木盗伐 - 入牢・追放・罰金・夫役
- ※享保7年(1722) 安芸郡古井村の男子脱藩事件

御留木 杉・檜・榎・楨・楠・桐
 +黒柿・さわら木・桑・漆・棕・檜・櫟・槐・銀杏・栃
 +櫻・椎・朴・枳・椿

②輪伐制

明暦2年(1656)「此時分御国尽山に成、杉檜無之御公儀より御注文出候ては、御好木之木品被差上儀成間敷」

小倉少助→野中兼山「輪伐制」

薪炭林 年々15分の1から20分の1を伐り出し

杉檜等 50年～60年サイクルの輪伐

③安芸郡の廻船と杣

天和3年(1683) 土佐藩廻船807艘 安芸郡481艘

大型廻船30艘は全て安芸郡

土佐薪 上方市場の6割 - 1万貫

+

材木 延宝元年(1673) 安芸郡杣7921人

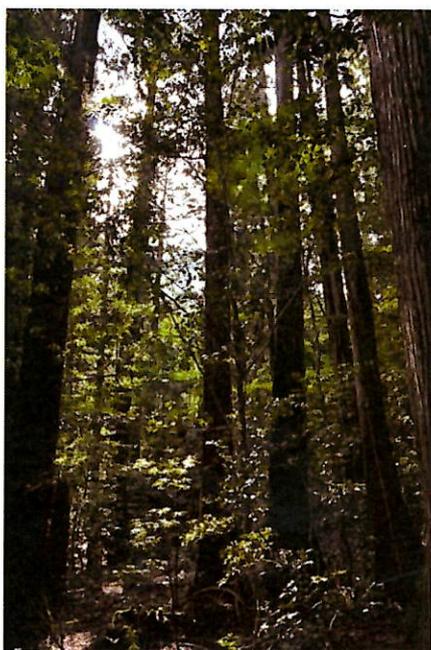
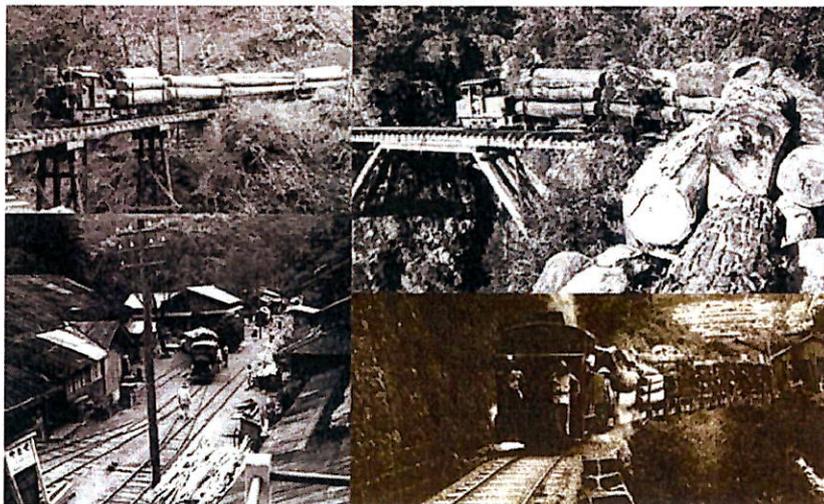
安芸郡15歳以上男子

19209人

=42.2%

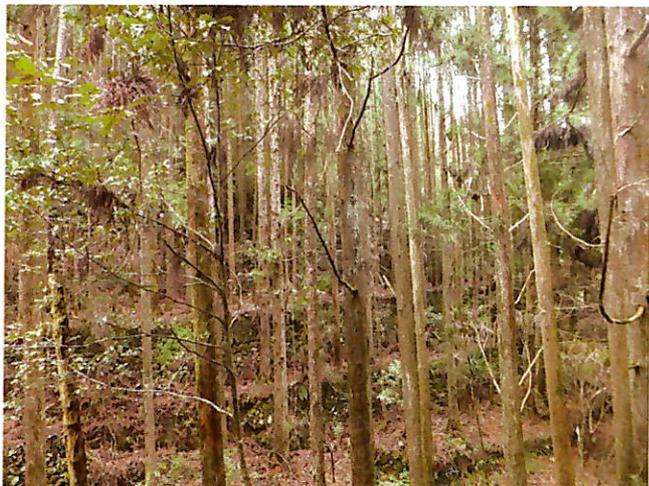
【近代】

①森林鉄道



安芸郡馬路村の魚梁瀬^{やなせ}にある千本杉は江戸時代からの杉林

③森林管理の新展開



廃村の植林



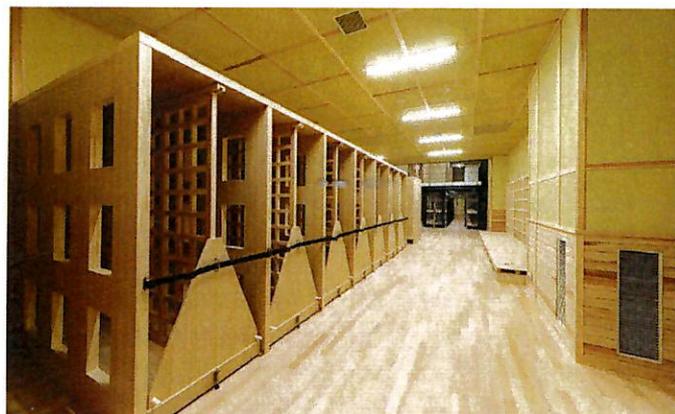
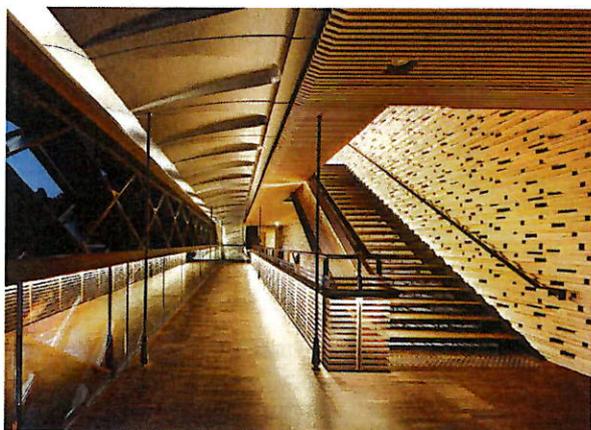
皆伐の開始

④高知県立林業大学校

「森林率日本一の高知県で、林業、木材産業、木造建築の各分野で基礎から専門的な技術までをしっかりと学べる学校です。高知県の林業を担う素晴らしい人材を育てることを目的として、平成27年4月に高知県立林業学校として先行開校し、平成30年4月からは専攻課程を加え、高知県立林業大学校として本格開校しました。」



おわりに - 博物館からのお願い -



発注者が確認できる制度 - 強度・精密性・安全性の保障